

【よくいただくご質問（職業準備支援について）】

Q1：どのような目的で利用できるのですか？

⇒A1

職業準備支援は、就職活動を希望している方に対し、それぞれの目的に応じて個別の目標を設定して実施しています。以下のような目的で利用する方がいらっしゃいます。

- いろいろな作業内容、場面の体験を通して職業適性を検討したい
 - 自分の障害の特徴を整理して、面接などで企業に説明できるようにしたい
 - オープン（障害を開示）もしくはクローズ（非開示）での面接対策をしたい
 - 「職場で必要なコミュニケーション」「ストレス場面への対処」「メモの活用」「スケジュール管理」などについて、自分の対処スキルを向上させたい
 - 支援を受けながら働くシミュレーションをしたい
-等

なお、就職活動に直結する取り組みであること、受講期間は2～12週間となっていることから、すでに仕事探しを継続している、もしくは近いうちに就職活動を始めようと思われている方のほうが、効果が高まります。

Q2：職業準備支援のカリキュラムはどのような内容ですか？

⇒A2

面接の受け方など就職活動に関する講座、発達障害の方や精神障害の方を対象にした講座の他、模擬的な就労場面での作業があります。

講座や作業内容の詳細は、ホームページ「職業準備支援のご案内」をご参照下さい。

Q3：職業準備支援の申し込み方法はどのようになっていますか？

⇒A3

職業準備支援をご希望する場合、現在の状況を確認させていただくため、「職業センター説明会」にご参加いただき「職業相談」を行います（「職業センター説明会」の内容は、ホームページの「職業相談・職業評価」をご参照下さい）。

*南大阪支所の管内の方は、南大阪支所にて個別に実施します。支所までお気軽にお問い合わせください。

その上で、職業評価を行い、ご自身のご希望や職業評価結果をふまえて、就職や職場定着に向け以下のような取り組みが有効と考えられる時に利用を提案させていただきます。

- 能力を発揮しやすい環境や業務内容、指示の出され方などを、職場と似た場面（職業準備支援の場面）で確認することが望ましい
 - 「職場での報告・質問等コミュニケーションの伝え方」「疲労を溜めにくい休憩の入れ方」「メモの記入・活用の仕方」などの対処方法を練習することが望ましい
 - 障害の特徴を整理して、面接などで企業に伝える場合の言い方や説明資料などの準備を進めることが望ましい
-等

Q4:職業準備支援は、障害をオープン（開示）にして就職する人が対象ですか？障害をクローズ（非開示）にして就職活動したいと思っておりますが利用できますか？

⇒A4

オープン希望の方、クローズ希望の方、両方を迷っている方も利用することができます。職業相談や講座でオープン・クローズのメリット・デメリットを整理する、それぞれの希望を踏まえて面接等の準備を進めるなどの支援を行っています。

Q5:職業準備支援は毎日通えないと利用できないのでしょうか？職業準備支援の中で、講座だけを受講することはできますか？

⇒A5

職業準備支援は個々の就職に向けた目標に応じた支援計画に基づいて利用していただきます。受講時間、日数、受講内容を一人ひとりの計画に合わせて柔軟に対応しますので、相談の上、受講時間の短縮や、必要な講座を中心に受講することも可能です。

Q6：在職中、休職中で障害がある方の場合、職業準備支援を利用することはできますか？

⇒A6

職業相談等の中で、職場適応や職場復帰に当たって課題の整理などが必要との支援計画を提示されており、所属する事業所の同意が得られる場合には利用していただくことができます。

なお、うつ病などの精神疾患による休職中の方は、当センターの「リワーク支援」をご利用いただける場合があります（「リワーク支援」の内容は、ホームページをご参照下さい）。

Q7：職業準備支援を受けた人が就職するときはジョブコーチを派遣してくれますか？

⇒A7

就職する事業所から同意をいただけた場合にジョブコーチ支援を実施することができます。

職業準備支援を終了された方の場合は、職業準備支援期間中の状況を踏まえた的確な企業現場での支援を提供できますので、就職に際してジョブコーチ支援のご利用をお勧めする場合があります。